

六拾九里半余當

同月十二日仙臺用馬牽入玉造白鹿苑之歲首經乃同月十日
豫舍日遠馬前日市原大雪和氣久保田村和氣抱御愛曉七時出
馬之豫舍山守所別限付其夜其時二日歸之歲初言此夜馬
有改名新鹿苑

同月十二日大雪豫舍日遠馬久保田村和氣馬隱波國去色日
馬名安伽羅王乃谷山未村抱御愛曉七時出馬久保田村和氣
山名上日之下名別限付其夜其時二日歸之歲初言此夜馬
過同入同馬之與別海道致谷宿之系系心未付改之日道法注未
日十二里余

右記之馬步前文適意少中秋之有乃与松澤屋

三平月所為云此市小田系遠馬七市有甚遠より云

十二月十六日

久保田村和氣

堀江原云古馬抄

好者松茶家の
牧士云

獨酌

李白

天若不愛酒酒星不在天地若不愛酒地應無
酒泉天地既愛酒愛酒不愧天已聞清比聖復
道濁如賢賢聖已飲何必求神仙三杯通大道
一斗合自然但得醉中趣勿為醒者傳

詩小既辞書酒詰禮小卿飲は樂し胡飲は有劉伶は酒乃
頌歐陽公の辞存亭のきまきめふ山くは酒をたりは角か
戸のくは酒はれぬ酒つは丸きい盃の山京は印油はくも
かーのー千軍振拂くーの鹿酒は天竺の古先生は
系遠水とのめと深勒佛は痛ふ酒利小青像をりあす葉
節の大徳は又六門を極樂と稱し一五田の法師をわたりは
らねをーさかのおふふりかまき良の葉り名ふり女集ふ
そ一おの酒をちれはふり酒の由忠人をかくーとひをり
原源の物酒は花の宴ふみむい酒は例るは酔らるるふ
勝月酒はつつきわく曉月の酒石首に京極家の骨肉

をらるるーふ斗を酒の指枕は軍法の本儀を失ふは偏小生辞
本性遠つは酒の一徳はー能く酒は和ふ春葉はふ為童冠
小酒顛らまきかる鄙小酒くー挽久くはつ々九のおのん
盃のおふりかむ影は名をさくむ干し格の酒はつては赤
を見もる代の鹿小児の盃或輩は難乃おつてお出乃ち人ち
酒くもさいつま酒はふはつき竹林の七賢は小廓の茶
赤くさくたひに春は酒は春酒の優劣をいふ飲中八仙
を酒く小利寺雨のも換りし和田酒盛の九拾は酒残石の教
小酒すすもー金銭のも得るふたは辞中の語こーおひす
その酒の酒を換りし時くは酒事つる者あはるる春

